

新製品紹介

NEW!!

FOR



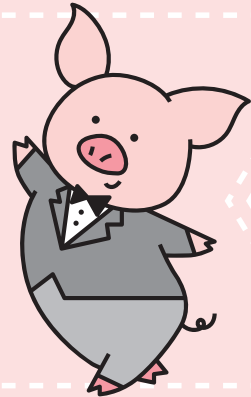
薄脂対策肉豚用飼料

特許  
出願中

ハリノリポーク

NORI NORI PORK

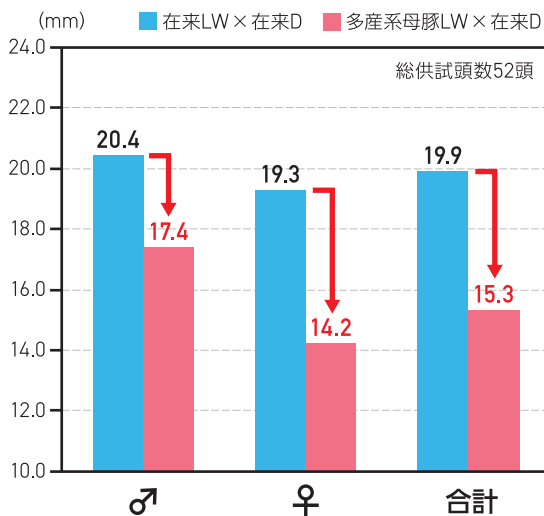
研究所 畜産研究室 養豚課



養豚業界では近年の品種改良の進展により、海外の多産系品種を中心に発育速度や飼料の利用効率が高まる反面、体への脂肪の蓄積が少なくなり、と畜場で背脂肪の薄さによる格落ちやカットの難しさによるクレームの発生が頻発するようになりました。

この問題を解決するために弊社研究所では飼料面での対策の研究開発を進め、「多産系品種の子豚の高い増体を維持したまま、背脂肪を蓄積させる新技術」を開発し、特許出願しました。この度、この特許出願技術をベースにした新製品『ハリノリポーク』を発売することとなりましたので、本稿では製品内容についてご紹介します。

【図1】種豚の品種改良による背脂肪厚への影響



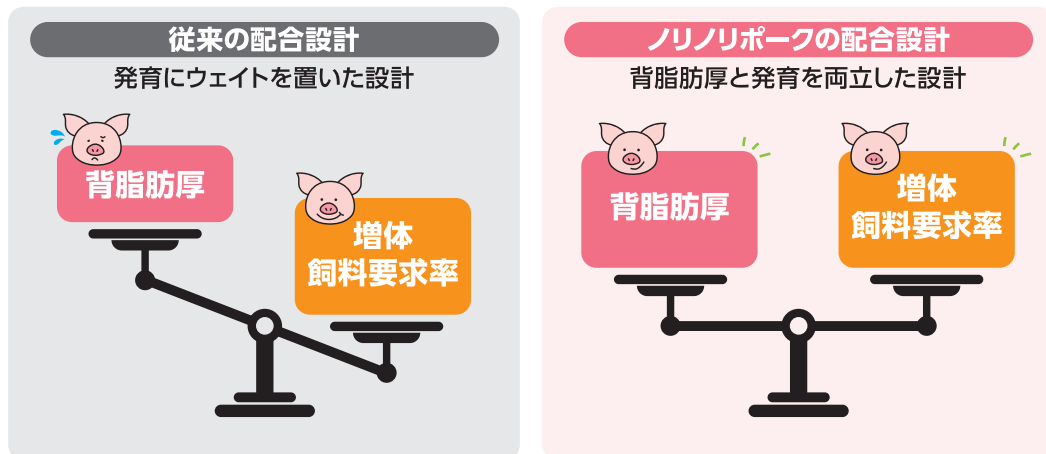
※両品種とも人工乳前期～肉豚期まで同一飼料を給与  
出荷日齢は160日程度、出荷体重は116kg程度

出典:フィード・ワン研究所 2018

## 開発の背景

【図1】に国内の一般的な三元豚と多産系品種由来の子豚の出荷時の背脂肪厚を示しました。どちらも止め雄は同じですが、多産系母豚から生まれた子豚の背脂肪は性別を問わず薄くなっていることがわかります。遺伝的に脂肪が蓄積しにくい品種では、飼料で背脂肪を高めようとするとうる育低下を伴うことが多く、これまでは発育を維持しながら薄脂を改善することは困難でした。しかし弊社では数年に亘る試験研究の結果、薄脂傾向の品種においても発育を維持したまま背脂肪の蓄積が可能となる独自の技術を開発することに成功しました。

【図2】 ノリノリポークの配合設計のイメージ



### ノリノリポーク専用の配合設計

ノリノリポークの配合面での特長は①肥育期間中の摂取エネルギー総量をも高める設計、②脂肪のノリ(蓄積)を考えた蛋白・アミノ酸バランス、③栄養の利用効率をも高める専用の技術、の3つの理論を組み合わせた点です。

【図2】にノリノリポークの配合設計のイメージ図を示しました。従来の肉豚用製品では多産系母豚の子豚の高いポテンシャルを発揮させるため、発育に重点を置いた設計でしたが、ノリノリポークでは発育と体脂肪蓄積の両面を考慮した栄養バランスとすることで高い発育と背脂肪の『ノリ』を実現します。

### ノリノリポークの給与効果

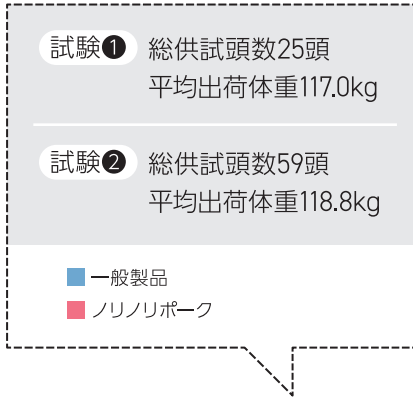
次にノリノリポークの給与試験の結果をご紹介します。多産系母豚の子豚に対し、肉豚期(70kg程度～出荷まで)にノリノリポークを給与した場合の背脂肪厚、薄脂豚の割合、枝肉歩留りおよび発育成績を【図3～6】に示しました。今回、異なる時期に同じ設定で2回試験を実施し、反応の再現性も確認しました。

対照区は一般的な肉豚用製品としましたが、ノリノリポークは一般製品と比較して背脂肪厚が有意に増加し、豚枝肉取引規格において格落ちの対象となる背脂肪厚12mm以下のいわゆる薄脂豚の割合が大幅に減少しました

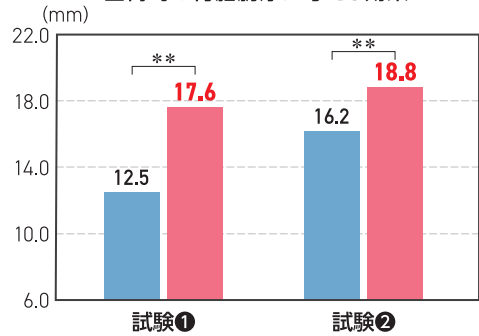
【図3】【図4】。興味深いことに、枝肉歩留りにも改善が認められました【図5】。これは栄養の利用効率を高める技術を採用したことによる影響と思われます。また、ノリノリポークの給与により増体、飼料摂取量および一日当たりのエネルギー摂取量が高まることが確認されました【図6】。一日当たりのエネルギー摂取量が増加したことで、脂肪蓄積が促進され最終的に背脂肪厚の増加に繋がったと考えています。

### おわりに

ノリノリポークは多産系品種をお使いで、出荷豚の薄脂にお悩みのお客さまにぜひともご活用いただきたい製品です。本製品で農場の生産性と収益性を改善し、農場経営をサポートしてまいります。

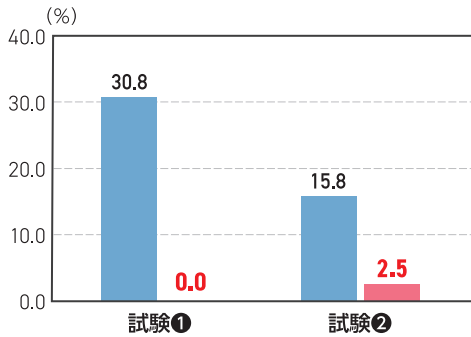


【図3】ノリノリポークの給与が  
出荷時の背脂肪厚に与える効果

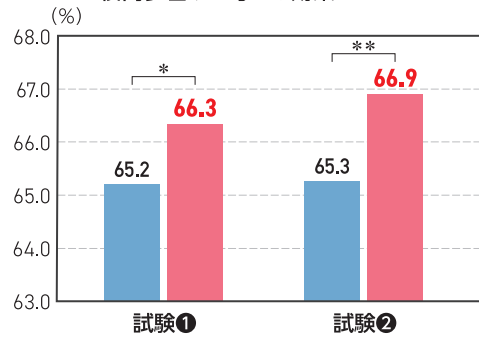


\*\*統計的有意差あり (P<0.01)

【図4】出荷時の薄脂豚の割合



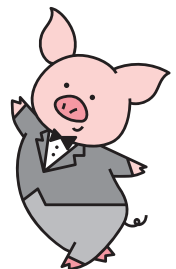
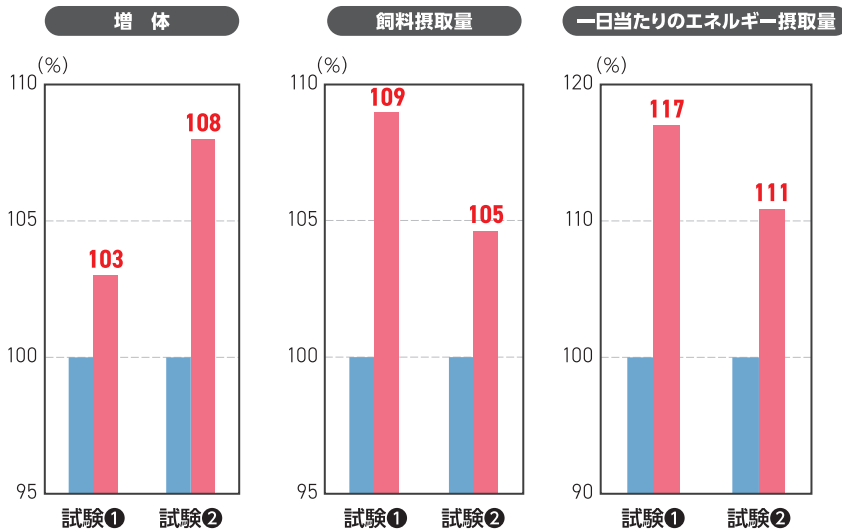
【図5】ノリノリポークの給与が  
枝肉歩留りに与える効果



\*統計的有意差あり (P<0.05)

\*\*統計的有意差あり (P<0.01)

【図6】ノリノリポークの給与が发育成績に及ぼす影響（一般製品対比 相対比率）



【図3】～【図6】出典：フィード・ワン研究所 2021, 2022